



空き家利活用コンテスト2022 最優秀賞



住宅部門

事例 01

## シェアハウス楽之<sup>(たのし)</sup>

“田舎暮らし”の事始めを応援する  
多様性あふれるシェアハウス



はじめは、建設業を営む受賞者に入った解体依頼から。築58年、約10年間空き家だった民家。立地は智頭町の最南端にある駒帰集落で、中心街から10km以上離れた岡山県境だ。利活用の条件がいいとはいえない。しかしながら駒帰は、国道373号線に面する関西への玄関口。「ここにシェアハウスがあれば田舎暮らしの架け橋になれるのでは」とチャレンジを思い立った。

家の中でも外でもそれぞれの暮らしを楽しんでもらえるよう、1階・2階の共有スペースを充実するとともに、各個室ではプライベートな空間を確保した。改修前、2階の3分の2は封鎖されていたが、壁を壊して大工事。張り巡らされた梁や柱とにらめっこしながら、1階の天井を壊して床を下げる、梁に頭がぶつからないよう段差を付けるなどして4部屋の居室を造った。今時のバリアフリーとは程遠い造りとなったものの、この家ならではの個性的な居住空間に仕上がっている。

「智頭町や鳥取県の魅力を知ってもらおうと同時に、今後ますます多様化する働き方、暮らし方の受け皿になりたい」と受賞者。創意工夫の中に、“智頭のまちづくり”への熱い思いが込められている。

1階のリビング。以前は2間続きの和室だったが、ふすまを取り払って広く明るい空間に。押入があったところには新しく窓を設け、ソファベンチを造作した。壁にはスクリーンも。シェアハウスの仲間と楽しい時間を過ごすことができる。



皆で食事したり談笑したり、使い方いろいろ。



古いシステムキッチンを活用。キッチンカウンターは古い家具を用いて造作、同色の塗装を施して統一感を出した。食器棚が収まっていたスペースもうまくアレンジして、キッチン家電を並べて置ける棚に。誰もが使いやすい仕様になっている。



古民家の情緒を残す玄関。土間横には1つ目の個室が。



(写真上・左下)1階に2部屋、2階に4部屋ある個室は全てフローリング、施錠&エアコン付き。  
 (写真右下)2階のリビング。ここを通過して各個室へ向かう。



[ DATA ]

- 【所在地】八頭郡智頭町 【構造】木造2階建て
- 【築年月】昭和39年1月 【改修後の用途】シェアハウス
- 【間取り構成】個室6室、リビング2ヶ所、ダイニング、キッチン、  
トイレ3ヶ所、シャワー室2ヶ所
- 【改修期間】2021年8月～2022年3月
- 【改修費用】約1,100万円
- 【設計者】株式会社 エコファイン鳥取